

令和 6 年度事業報告

(令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日まで)

I. 法人の状況に関する事項

令和 6 年度は、新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症へ移行して 1 年が経過し、昨年に比べ、安心して研修・体験活動（淳風美俗育成事業）を提供することができました。加えて S D G s を意識した活動も継続的に盛り込み、質の高い活動を目指しました。昨今の猛暑のため、夏季には活動を控えざるを得ない団体もありましたが、事業計画での目標に近い活動実績を残すことができました。

染色、染料及び色彩に関する研究等事業（学術研究事業）での繊維染色委員会も年度内に 3 回開催し、研究成果を上げることができました。

収益事業は、事業用賃貸建物 4 棟の管理及び 2 件の土地賃貸を滞りなく行い、公益目的事業の予算規模に応じた収益を得ることができております。

関係各位のご支援ご協力により事業活動を順調に継続できましたこと深く感謝申し上げます。まことにありがとうございました。

役員に関しましては、理事は期中に 1 名減の 5 名、監事は 2 名の体制で推移致しました。

II. 事業の状況

1. 淳風美俗育成事業（公益目的事業 1）

キャンピング指月林敷地内にあるキャンプ場、研修棟、グラウンドや染料植物園を活用し、青少年にとって自主的な活動となることに主眼を置きながら、研修・体験希望者の目的や年齢構成を常に意識した六つのプログラム（キャンピング、瞑想、作務、茶道、草木染、スポーツ）をもとに活動を継続いたしました。

活動実績は、47 団体、来場者総数 1095 人、活動日数 62 日で、前述の酷暑のために前年を下回りましたが、前年と比して宿泊を伴う活動が増え、各団体の研修内容が充実したものとなりました。（それぞれの前年度実績は、57 団体、1420 人、68 日）

個別プログラムの状況は、以下のとおりです。

(1) キャンピング研修

29 団体（44 延団体）、1277 人の参加、59 日の活動実績です。（前年度は、28 団体、延 39 団体、1468 人、60 日）

薪での野外調理、テント宿泊、後片付けなどにおけるグループ内での協力をメイン

テーマとして、天候の変化、道具器具の活用、危険回避などにも意識が向くような指導に努めました。「自然の中での集団による活動・共同生活」を意識してもらうことで、全員で協力して取り組むことの大切さを実感できる内容となりました。

SDG`s のゴール 12 (つくる責任 つかう責任)に通じるエシカル消費活動は、所員と来場者一体で取り組みを進めています。

(2) 瞑想研修

全来場団体の参加を得られるように進めております。28 団体 (延 46 団体)、1010 人の参加、46 日の実績となりました。(前年度は 34 団体、延 57 団体、1381 人、57 日)

研修棟内で落ち着ける環境を整備し、小学生から大学生まで広い年代から高評価を得ており、活動後の感想文にも瞑想時の印象を記されることが増えています。

(3) 茶道研修

「茶の湯や所作・作法を通して、広く日本の文化に触れる」という目的を踏まえ、親しみやすい茶道体験を目指しました。限られた時間内で効果を上げるため、研修参加者の要望、年齢、経験等に応じた指導を心掛けました。本年度は、5 団体 (延 5 団体)、75 人の参加、5 回でした。(前年度は 4 団体、延 4 団体、56 人、4 回)

(4) 作務研修

28 団体 (延 45 団体)、1051 人の参加、45 日の活動実績です。(前年度は 32 団体、延 55 団体、1388 人、55 日)

参加者の年齢や人員構成などを踏まえて、「来たときよりも美しく」と「次の人のために美しく」という達成感を意識できるよう努めました。また、春から初夏にかけては草引き、初夏や晩秋には落葉の清掃など季節に応じて楽しく取り組める内容も盛り込んでおります。

(5) 草木染研修

13 団体 (延 13 団体)、275 人の参加、13 回の活動実績です。
(前年度は 6 団体、延 9 団体、287 人、12 回)

染料植物園で採取した染材での体験を基本として行ないました。草木染の奥深さを体感してもらうために、当日に煮出しから染色までを完結する染材だけでなく、前日又は事前に長時間の煮出しによってはじめて染液を得られる染材にも取り組んでいます。時期によっては、採取から染色まで一貫して体験できる染材もあり、季節を感じてもらえる内容も大切にしています。

(6) スポーツ研修

12 団体（延 15 団体）、418 人の参加、15 回の実績となりました。（前年度は 19 団体、延 23 団体、699 人、22 回）

少年期の運動能力向上の一助となることを目的に、その年代にふさわしい運動があるという理論を学習しながら、長期的な視線で取り組んでいます。グラウンドの芝は、職員による日常の手入れを欠かさず、四季を通じたドッジボールやフリスビー、夏には水遊び、秋には運動会など、広い場所で運動する機会の少ない団体に、たくさんの笑顔が見られる活動を提供できています。

2. 学術研究事業（公益目的事業2）

繊維染色研究は、例年と変わることなく年度初めに設定したテーマに取り組みました。また、年 3 回実施する繊維染色委員会は、研究員が一堂に会して開催することができました。

附属染料植物園で植栽している染料植物は、草木染の科学的研究、染料の保存方法の研究、草木染研修、染料植物の学習に活用しております。

(1) 繊維染色研究

本年度も研究成果を論文としてまとめ、論文集「葆光」第 36 号に掲載しました。

掲載テーマ

- ① 羊毛繊維の酸性媒染染色におけるクロムによる後媒染機構（続）
- ② クロムイエロー染色における染料と顔料の色彩的相違
- ③ クロムイエローにおける染料と顔料の違いによる心理効果
- ④ 「花梨」の染色性に関する一考察 ―先媒染における温度の影響―

(2) 繊維染色委員会

本年度の繊維染色委員会は、以下の日程で行いました。

第 1 回	令和 6 年	8 月	19 日
第 2 回	令和 6 年	12 月	9 日
第 3 回	令和 7 年	3 月	17 日

(3) 附属染料植物園

附属染料植物園は、樹木系エリアと畑(低木と草花系)エリアに分け、共に植栽種の

増加を求めることなく、適切な管理計画に従い、剪定、植栽、補植等を実施いたしました。特に畑エリアでは、草木染研修や学術研究用などで必要な染材を提供するために、適切な時期に、幹、枝、葉、花弁などを採取し、乾燥の後、保存しております。また、草木染研修の際には、季節、種類によっては来場者が自ら染料植物園で採取した染材を使用することも可能です。

- ① 樹木系エリアでは、定期的に標準管理スケジュールと現状を確認し、専門家の判断も仰ぎながら、適宜、剪定、補植等の必要な手入れと必要な処置を取っております。
- ② 畑エリアでは、栽培計画に基づき主に草花・野菜系染料植物を育て、低木系染料植物の植栽とともに、染材として提供できる体制を整えております。
- ③ 染料植物説明板（全 218 枚）を維持管理し、研修活動時の自然への興味向上や草木染学習・染料植物園見学に活用しております。来場時のオリエンテーションやクイズなどに活用できるよう、記載内容の見直しや更新も適宜行いました。
- ④ 「食」に関する知識、「食」への感謝などを経験できる良い機会となるように、野外調理などで食材として使用できる野菜や果実を栽培し、植付け→収穫→野外調理の一貫した体験を可能とする体制を整えています。

3. 収益事業

不動産賃貸管理事業の管理手数料収入、不動産賃貸事業の賃料収入、ともに計画どおりの収入でした。

(1) 不動産賃貸管理事業

	期 首	期 末
事業用建物	4 棟 10 相手先	4 棟 10 相手先

(2) 不動産賃貸事業

2 件の土地が年度を通して稼働しました。

以 上